

公 民 [倫 理] (100 点 50 分)

2014 年 12 月 8 日 (月) 2 限 実施
後期② 考査
千葉県立長生高等学校 第 3 学年 全組
Edited by K.Kataoka

注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 解答用紙はマークシート式です。
- 3 受験番号はアルファベットを数字に直し、次の例のように 5 桁で記入してマークを忘れないこと。
例 3 年 D 組 1 番 → 30401
- 4 試験中に解答用紙の不足、問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 5 試験終了後、問題冊子は持ち帰って復習をするとともに、答案返却の際に持参すること。
- 6 センター過去問演習参加者は社会科研究室前から次回の問題を持って行くこと。

倫 理

(解答番号 [1] ~ [50])

第1問 次の文章を読み下の問い(問1~問7)に答えよ。(配点 18)

仏陀の死後100年ほどたつと、仏教教団は仏陀の教えの解釈をめぐり、仏陀の言行に忠実にしたがおうとする上座部と、仏陀の精神を重視する大衆部とに分裂した。この二派はさらに分裂を重ねて、紀元前2世紀ごろには、二十の部派に分かれた。これらを部派仏教という。部派仏教では、もっぱら仏陀の教えを分類し整理して、教えの意味の解釈や体系化がなされ、のちの仏教理論の基礎が形成された。また、彼らは仏陀の言行を解脱の方法として理解し、きびしい修行によって、[1] となることをめざした。

紀元前1世紀ごろになると、おもに大衆部の流れをくむ布教師や在家信者などのあいだから、大乘仏教の運動がおこった。彼らは、従来の上座部系の部派仏教の教えを自己の解脱のみを考える、小さな劣った教えであると批判して小乗仏教とよび、仏陀の言行の精神は、すべてのものの救済をめざす [2] にあると考えた。ここから大乘仏教では、この世に生きとし生けるものすべて(一切衆生)の救済をめざして修行する、菩薩のあり方が理想とされた。彼らは、一切は空であるとの立場に立ち、(a)六波羅蜜の実践を通して、他者の救済と自己の悟りをめざした。

大乘仏教の教えは、(b)ナーガールジュナ(竜樹)の空の思想によって、理論的に確立された。彼は、縁起の考えを徹底させて、すべての事物は(c)無自性であると説いた。このことを一切皆空(五蘊皆空)という。

彼の理論によって、煩惱や苦行もまた固定的なものではなくなり、迷いのなかにある凡人にも仏となる可能性が開かれることになった。すなわち、この考え方は、自己の悟りと他者の救済にへだてを設けない慈悲の立場や、(d)すべての生きものに仏となる可能性(仏性)を認める考えにつながるものであった。大乘仏教の根本を確立した竜樹は、のちに中国や日本において、多くの宗派の祖として重んじられた。

さらに4世紀ごろには、(e)唯識の思想がアサンガ(無著または無着)、ヴァスバンドゥ(世親)兄弟によって唱となえられ、大乘仏教の有力な学説として、(f)後世に大きな影響をあたえた。

(g)大乘仏教はインドから北方に伝わり、1世紀ごろには中国に、4世紀には朝鮮に、6世紀には日本に伝わった。一方、上座部系の仏教はスリランカや東南アジアに伝わった。この系統の仏教は、今日でも、タイやミャンマーなど東南アジア諸国で多くの人々に信奉されている。

問1 文章中の空欄 [1] ~ [2] に入る最も適当な語を、次のそれぞれの①~④のうちから一つずつ選べ。

[1]

[1]	⎧	① 仏陀	② 阿羅漢
				③ 菩薩	④ 阿修羅

[2]

[2]	⎧	① 自利	② 解脱
				③ 縁起	④ 慈悲

問2 下線部(a)に関連して、六波羅蜜についての説明として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。[3]

- ① 般若ともいわれる智慧
- ② 出家も在家もそれぞれの戒律を守る持戒
- ③ 対象に心を集中し、散乱する心を安定させる禅定
- ④ 巧みな手段で衆生を導く方便

問2 下線部(b)に関連して、ナーガールジュナの著作として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[4]

- ① 唯識二十論
- ② 中論
- ③ 阿毘達磨俱舍論
- ④ 瑜伽師地論

問3 下線部(c)に関して、無自性の意味として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[5]

- ① 相互に依存しているだけではなく、それ自身として固定的に存在するのではない
- ② 相互に依存しているだけではなく、それ自身として固定的に存在している
- ③ 相互に依存するのではなく、それ自身として固定的に存在するのでもない
- ④ 相互に依存するのではなく、それ自身として固定的に存在している

問4 下線部(d)に関して、この考え方の名称として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[6]

- ① 大乘非仏説
- ② 中観説
- ③ 如来蔵説
- ④ 空論

問5 下線部(e)に関して、唯識論についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[7]

- ① 三密加持で自己を実在界の一個の象徴と化することによって即身成仏をはかる
- ② すべての存在はその固有の本質をもたず、空である
- ③ 我々が法を経験できるのは現在の一瞬間にすぎない
- ④ 実在するのは心のはたらきだけであり、外界の事物は意識の産物にすぎない

問6 下線部(f)に関して、唯識の思想を学説とした宗派として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[8]

- ① 律宗
- ② 法相宗
- ③ 華嚴宗
- ④ 三論宗

問7 下線部(g)に関して、次の密教についての説明の中の空欄【 A 】に入る語として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。[9]

【 A 】は密教の中心本尊である。サンスクリット名マハーバイローチャナの訳で、摩訶毘盧遮那と音訳し、単に毘盧遮那仏ともいう。その智慧の光明があまねく一切に及び、慈悲の活動が永遠不滅とされ、密教の体系ではすべての諸仏諸菩薩はこの如来より出生したとされる。『大日経』に説く胎蔵界【 A 】と、『金剛頂経』に説く金剛界【 A 】の2種があり、両経が展開する説に基づいた、いわゆる両界曼荼羅の中心に位置する。

- ① 大日如来
- ② 虚空蔵菩薩
- ③ 不動明王
- ④ 薬師如来

第2問 次の文章を読み下の問い(問1～問6)に答えよ。(配点 14)

中国思想の源流が形成されたのは、紀元前12世紀末に黄河流域に進出した周王朝の時代である。周は、[10] 制を基盤とし、天子と諸侯は血縁関係によって結ばれていた。古来、中国人の生活は、血縁関係の重視と祖先崇拜を中心とする家族制度を基礎として営まれていた。これは、人もものもすべて天から生まれたとする古い民族信仰にもとづいている。周の支配は、天の祭りや血縁関係における身分秩序を定めた [11] を基礎とするものであった。

紀元前8世紀にはいると、周王朝の勢力はしだいに衰え、春秋・戦国時代がはじまった。諸侯は富国強兵策をとり、国の内外から身分を問わずに有力な人材を求めた。この動きにこたえて登場した思想家たちを、諸子百家という。

諸子とは、書目では経書や史書などと対置されるのだが、本来はもろもろの学士をさす。その本格的な学派分類は、司馬談の六家、(a)陰陽家、儒家、墨家、(b)名家、(c)法家、道家、および班固の十家、儒家、道家、陰陽家、法家、名家、墨家、縦横家、雑家、(d)農家、小説家に始まる。先秦時代の諸子に限っていえば、かかる後代の尺度による分類は、かならずしもその実態の把握に直結しない。なぜなら、いわゆる諸子百家のうち学派とよぶにふさわしい実質を備えていたのは、儒家と(e)墨家の両派のみであったと推測されるからである。したがって、十家などの分類は、諸子のたまかな思想・学説の傾向を示したものにすぎない。戦国期に諸子の輩出した原因としては、各国君主が混迷の時代を乗り切るための方策を求めていたことや、それに伴う活発な精神を基調とする下剋上の風潮などをあげることができる。

問1 文章中の空欄 [10] ～ [11] に入る最も適切な語を、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

[10]

① 神権	② 専制
③ 封建	④ 武断

[11]

① 義	② 仁
③ 礼	④ 智

問2 下線部(a)に関して、陰陽五行説の説明として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。[12]

- ① 陰陽説とは、陰陽二気の消長により万物の生成変化を説く思想で、これが易に取り入れられてその基本原理となった。
- ② 五行説は、古代人の生活に必要な五つの素材、つまり民用五材の思想に基づく説であり、生活に直接的な水火に始まり、木金に及び、その基盤をなす日に終わる。
- ③ 鄒衍はこれを歴史の場に適用し、王朝の交代を理論づけた。彼によれば、各王朝はそれぞれ五行のひとつを賦与されており、命運がつきると新王朝に取って代わられる。
- ④ 陰陽五行は、十干、十二支、六十四卦などの数と結び付き、迷信禁忌の色彩を濃くし、その後の民間信仰のなかに入っていた。

問3 下線部(b)に関連して、名家の公孫龍の言葉として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[13]

- ① 青は藍より出でて藍より青し
- ② 働かざる者食うべからず
- ③ 白馬は馬にあらず
- ④ 故きを温ねて新しきを知る

問4 下線部(c)に関連して、韓非子についての下の説明文中的空欄，【 A 】に入る語として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。[14]

『韓非子』では、人民は支配と搾取の対象であり、君主に奉仕すべきものとされる。「君主と人民の利害は相反する」として、この観点から、厳格な法で人民を規制すべきを説くが、そのいわゆる法治主義は、法と術と勢の三者を強調する。君主たる者は臣下を統御しうる勢を利用し、客観的な法と、胸中にかくす術とを兼ね用いれば、臣下を自由自在に操縦することができる。その際、【 A 】が有効な要具となる。

その法治主義は法の権威を確保するために、いっさいの批判を封ずる。現在の法を批判する者は、多くの場合先王の法をもちきたって、両者を対置して論評する。韓非にとってまず抹殺さるべきは先王の法であった。先王主義を否定する論拠は、顛学篇に詳しい。

- ① 陰と陽
- ② 賞と罰
- ③ 仁と義
- ④ 善と悪

問5 下線部(d)に関連して、農家の思想家として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[15]

- ① 恵施
- ② 商鞅
- ③ 許行
- ④ 列子

問6 下線部(e)に関連して、下の文中の空欄【 B 】に入る最も適当な語を、次の①～④のうちから一つ選べ。[16]

墨子の思想のうち、もっとも特色があり、またもっとも有名なのは【 B 】説である。【 B 】とは、無差別の人間愛であり、親疎や遠近の区別をしない。一視同仁の愛である。このような人類愛は、家族愛や愛国心といったエゴイズムの否定のうえに成り立つものであろう。家族愛や愛国心と、人類愛とには質的な違いがあり、大きな懸隔がある。この懸隔を飛び越えて人類愛の世界にいたるには、なんらかのばねが必要であり、ばねの役割を果たしたのは、墨子の場合、宗教であった。宗教家の墨子は同時に政治理論家であり、【 B 】説にもとづいて、侵略戦争に反対する非攻、葬儀を簡略化する節葬、音楽を廃止する非楽をとらえた。

- ① 敬愛
- ② 別愛
- ③ 兼愛
- ④ 仁愛

第3問 次の文章を読み、下の問い（問1～問7）に答えよ。（配点 20）

孔子は、春秋時代の末期に魯の国に生まれた。彼は礼をつくりあげたといわれる聖人 [17] にあこがれて若いころから学問にはげみ、周の衰退とともに失われた礼の復興につとめた。

孔子の教えは、彼と門人たちの言行を集録した (a)『論語』に伝えられている。彼の関心は自然の神秘を探究することにはなかった。また、死後の安心を直接に問うこともなかった。彼の探究はもっぱら、現実社会のなかでの人間としての正しいあり方や幸福に向けられていた。この人間としてもっとも望ましいあり方を、孔子は、「仁」ということばであらわした。仁という心のあり方は、さらに (b)「克己」「恕」「忠」「信」などのことばであらわされる。

心のあり方としての仁を説いた孔子は、仁が行為として外面にあらわれたものが礼であるととらえ、(c)礼の意義を強調した。

孔子は、仁と礼を身に備え、道を求めて不断に修養する者を君子とよび、君子を志すことのない者を小人とした。君子はつねに正しく生きること、すなわち [18] を志すが、小人はつねに利を求める。君子は心から他人に協力できるが、小人の協力はうわべだけである。また、君子は人間として調和のとれた教養を身につけるべきであり、かたよりのない徳として (d)中庸を備えるべきであると説いた。

孔子は、[19] が政治の理想であると考えた。彼は、法と刑罰によって人民を統治しようとする法治主義に反対し、君子の感化によって天下に秩序と調和がもたらされるという (e)徳治主義を主張した。

問1 文章中の空欄 [17] ～ [19] に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

[17]

① 禹	② 舜
③ 堯	④ 周公旦

[18]

① 智	② 誠
③ 義	④ 美

[19]

① 修己治人	② 則天去私
③ 信賞必罰	④ 小国寡民

問2 下線(a)に関して、『論語』の文として**適当でないもの**を、下の①～④のうちから一つ選べ。[20]

- ① 学んで思わざれば則ち罔し。思うて学ばざれば則ち殆うし
- ② 道の道とすべきは、常の道にあらず。名の名とすべきは、常の名にあらず。
- ③ 吾れ十有五にして学に志す。三十にして立つ。四十にして惑わず。
- ④ 朝に道を聞かば、夕べに死すとも可なり。

問3 下線部(b) に関して、次の論語の引用文の空欄【A】に入る最も適切な語を、下の①～④のうちから一つ選べ。[21]

顔淵仁を問う。子曰く、己に克ちて礼を復むを【A】となす。一日己に克ちて礼を復めば、天下【A】に帰す。【A】を為すは己に由る。人に由らんやと。

- ① 義 ② 信 ③ 仁 ④ 智

問4 下線部(c) に関して、礼の意義を述べた文として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。[22]

- ① 古代中国の身分秩序に則った行為の規範。
② 礼に背く者は厳しく処罰されなければならない。
③ その振る舞いが礼にかなっていても、人に仁がなければ礼に意味はない。
④ もともとは、神に供物を供えて福を得るといふ、神と人間との関係を示すもの。

問5 下線部(d) に関して、儒家の中庸についての説明として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[23]

- ① 何事もほどほどにして力を抜くこと。
② 常に過不足なく中正の立場を保つこと。
③ 快でもなければ苦でもない道を歩むこと。
④ 超過と不足を調整する知性的徳。

問6 下線部(e) に関して、徳治主義をあらわす論語の言葉として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[24]

- ① 過猶不及
② 君子和而不同
③ 譬如北辰居其所，而衆星共之
④ 巧言令色鮮矣仁

- 問3 下線部(b)に関して、浩然の気を養った状態の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[29]
- ① ありのままの自然な状態に身をゆだねて悠々と遊ぶ状態。
 - ② 宇宙の秩序を知って、その秩序にかなった行為をする状態。
 - ③ 徳を身につけて道徳的な人格を完成させた状態。
 - ④ どんな困難にあっても徳を実践しようとする気概を持った状態。

- 問4 下線部(c)に関して、五倫の道の内容として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[30]
- ① 君臣の序 ② 夫婦の親 ③ 父子の義 ④ 朋友の信

- 問5 下線部(d)に関して、五常についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[31]
- ① まごころと思いやりを持って他と接する仁
 - ② 友情に厚く、言明をたがえないで真実を告げる義
 - ③ 利欲にとらわれず、なすべきことをする信。
 - ④ 善悪を分別し道理をよく知り得ている礼。

- 問6 下線部(e)に関して、王道政治についての説明として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。[32]
- ① 民の生活と安全を守るため武力や謀りごとを用いて力の政治を行う。
 - ② 民意にしたがわない君主は、天命を失ってその地位から追放される。
 - ③ 人民のことを第一に考え、徳にもとづいた政治を行う。
 - ④ 民がもっとも大切であり、土地の神や穀物の神がそれにつき、君主はもっとも軽い。

第5問 次の文章を読み、下の問い（問1～問9）に答えよ。（配点 18）

春秋時代から漢の時代にかけて、儒教の經典が数多く作成された。そのおもなものは、のちに (a)四書・(b)五經として重視された。漢代以降は、五經を主としてこれらの經典を研究する儒学が成立し、經典の理論的統一と体系的な解釈に力がそそがれた。

とくに、唐から宋にかけて仏教が広まると、それに触発され、儒教が哲学的な要素をとり入れるようになっていった。その代表が、【A】代の朱熹の朱子学と、【B】代の王陽明の陽明学である。

朱子は、天地万物に内在する宇宙の原理と、万物の元素である運動物質によって世界の構造をとらえた。この考えを理気二元論という。朱子によれば、理は、【C】である。天からあたえられた人間の本質もまた理である。(c)人間は本来理と一体のものであるが、しかし現実の人間は、物質的に妨げられた状態にあり、完全な善をなすことができない。そこで彼は、つつしみによって人欲を捨て、万物にやどる理を窮め、宇宙の理と一体化することが理想の道であると説いた。そして、理と一体化した理想の人格を [33] とよび、[33] にいたるための方法論として、四書のうちとくに (d)『大学』の教えを重視した。

朱子がおもに事物の理を窮めることを主張したのに対し、(e)王陽明は、理を人間の心のなかに見だし、(f)生まれながらの心の本体がそのまま天理であると考えた。そして、この心が善悪是非を判断するはたらきのままに生きることが人間の道であると説いた。彼のこの考え方を [34] という。

また彼は、良知は行為によって実現されると考え、実践をきわめて重視した。このことを彼は、(g)「知は行のはじめであり、行は知の完成である」と述べた。彼のこの考えは、知行合一とよばれる。

問1 文章中の空欄 [33] ～ [34] に入れる最も適当なものを、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

[33]

① 真人	② 大丈夫
③ 君子	④ 聖人

[34]

① 徳福一致	② 性即理
③ 知徳合一	④ 心即理

問2 空欄【A】【B】に入る語の組み合わせとして正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[35]

- ① 【A】宋【B】明 ② 【A】宋【B】清
③ 【A】元【B】明 ④ 【A】元【B】清

問3 空欄【C】に入る文として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[36]

- ① あらゆる事物の生まれる場所であり、すべてが帰る場所
② あらゆる事物を成り立たせる根拠であり、したがうべき規範
③ あらゆる事物の本質であり、この世界を超えたところの实在
④ あらゆる事物の始まりであり、畏れの対象としての超越者

問4 下線部(a)に関して、四書として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。

[37]

- ① 論語 ② 孟子 ③ 中庸 ④ 孔子

問5 下線部(b)に関して、五経についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[38]

- ① 『書経』は古代の占筮の書であり、「経」の部分と「十翼」の部分とからなる。
② 『春秋』は堯・舜以下、夏・殷・周三代の帝王の事蹟をまとめたものである。
③ 『礼記』は魯の242年間の国家的大事を略記した年代記である。
④ 『詩教』は黄河流域の諸国や王宮で歌われた詩歌を収めた中国最古の詩集である。

問6 下線部(c)に関して、理と一体となった人間の性を指す語として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[39]

- ① 理性 ② 人情 ③ 本然の性 ④ 気質の性

問7 下線部(d)に関して、『大学』の内容の説明として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。[40]

- ① 偏らざるを中と謂い、易（か）わらざるをこれ庸と謂う。
② 物格（いたっ）てのち知致る。
③ 身修まってのち家斉（ととの）う。
④ 国治まってのち天下安らかなり。

問8 下線部(e)に関して、王陽明がその思想を受け継いだ、朱子と同時期の思想家として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[41]

- ① 周敦頤 ② 程明道 ③ 陸九淵 ④ 程伊川

問9 下線部(g)に関して、この考えを伝える王陽明の語録として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[42]

- ① 資治通鑑 ② 伝習録 ③ 四書集注 ④ 近思録

問3 下線部(b)に関して、小国寡民がもたらすものとして**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。[48]

- ① 船や車があってもそれに乗るまでもない。
- ② 甲（よろい）や武器があっても使う必要がない。
- ③ 他国の人と互いに行き来する必要がない。
- ④ 生きるために必要な仕事もする必要がない。

問4 下線部(c)に関して、これをあらわす語として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[49]

- ① 心齋坐忘 ② 大同小異 ③ 万物斉同 ④ 明鏡止水

問5 下線部(d)に関して、これをあらわす『莊子』の記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[50]

- ① 三十の輻，一つの轂を共にす。その無に当たりて，車の用あり。
- ② 大方は隅無し。大器は晩成す。大音は聲希なり。大象は形無し。道は隠れて名無し。
- ③ 良薬は口に苦くして病に利あり。忠言は耳に逆らいて行いに利あり。
- ④ 北冥に魚あり，其の名を鯤と為す。鯤の大いさ其の幾千里なるかを知らず。化して鳥と為るや，其の名を鵬と為す。

これで問題は終わりです。